

# 野木小学校 同窓会報

第3号

昭和63年3月

野木小学校同窓会 編集部

## 就任のごあいさつ

喜多利夫



同窓会員の皆様お元気ですか、この度、昭和五十九年十月同窓会発足以来当会の発展と育成のため大変な御尽力を賜り御業績を残されました倉谷静夫様が御高齢の事由で職を辞退されました。茲で倉谷会長様に心から御礼の言葉を申し上げます。

就いては理事会の御推挙を頂きひたすら御辞退を致しましたがその意を得ず、校庭整備委員長として大変な皆様の御力添えを得ながら又も面厚く御引受することになりました。会員の皆様御周知の通り私は誠に微力然も

浅学菲才その器ではございませんが幸にも立派な副会長理事の皆様学校当局の皆様や会員の方々の御指導と御協力を頂き一生懸命に努めたいと思っておりますので宜敷くお願い申し上げます。

美しい野木の里を表現した校歌を思い浮べるとき故里は懐しくもあり良いものであります。歌に「兔追いしあの山小鮒つりしこの川」と、思い出す時躍動する野木の姿が美しく画かれて行きます。

同窓の会員の方には遠く離れた地でお活躍の方、そして又野木の里に住み発展の夢を福音と守りつづけていられる方々と存じますが、お互共々力を合せて故里造りにまい

進致したいと思えます。どうかよろしくお指導の程を伏し

## 退任のごあいさつ

倉谷静夫

会員の皆様には、益々お元気でお励みのことと思います。私、同窓会の仕事をさせて頂いた頂きましたが今回その職を退かせていただくことになりました。思い返しますと、五十九年度に同窓会設立の気運が高まり、当時、福井県知事、中川平太夫氏を名誉会長として発足いたしました。

学校においては、グラウンド整備事業が行われることにな

て、願ひ致しまして、会員御一同様の益々の御健康と御多

幸をお祈り申し上げまして御挨拶にかえさせて頂きます。

り、何んとか立派なものにして、ようという皆さんの願いから多額の御寄付をいただき、立派に完成しました。その間、会員の方々から、温かい御指導と御協力を賜わり終生忘れられない大きな仕事をさせて頂いていただきました。心から感謝申し上げます。

広々としたグラウンドで運動したり、遊んでいる子ども達の姿を見るにつけ、心なごむ思

いがいたします。

「立派なグラウンドですね。」と、誰かれとなく声をかけられますが、やってよかったという嬉しさが、胸にこみ上げてくるこの頃でございます。

この度、喜多利夫様が会長様になられました。私共一同母校の為、微力ながらお力添えしなければならぬと考えています。

最後に、会員の皆様方の御発展と御健康をお祈り申し上げます。退任のごあいさつといたします。

## 退職をひかえて

校長 大岸 淳

梅の蕾がふくらんで春はすぐそこまで訪れております。私はこの三月末で四十年間の教員生活に終止符をうちますが、その最後を野木小学校で終えられることをしみじみありがたく思っております。

昭和五十四年から四年間は

教頭として、六十年から三年間は校長としてお世話になりました。その間に、プール建設、開校百年祭、ランチルーム他特別教室の増築、グラウンドや校門、庭園の造成、遊具の設置などをして頂き施設が一段と充実しました。すべて





同窓会員の皆様方、校下の皆様方の母校への御好意と御尽力によって実現したものであります。ありがとうございます。

施設面のほかに私が何よりも感激したのは、日々私や職員に与えて下さった皆様のおあたたい御好意、これこそ終生忘れることの出来ないものでございます。出張を終えての帰路、橋を渡って野木地区にさしかかるといつも、「あ、うちへ帰って来たなあ。」とほっとした安らぎを覚えました。幼い頃、母のふところを感じたやさしさとあたたかさに満ちた風にふんわりと抱きとめられる思いになりました。中学校へ転勤を命じられた間、出来ればもう一度野木へ帰りたいと思いつけておりましたがその念願がかな

った私は幸運児でした。ただ、そう思えば、思うほど皆様の御好意に甘えてしまつて無為に過ごしたことが、今になって自責の念にとらわれているこの頃です。今更とり返しはつきません。お許しを乞うばかりです。

しかし私の代りに職員たちが私のぶんまでがんばつてくれました。従つて子供達は心も体も健やかに、まじめな努力を積み重ねてめきめきと実力をつけ、すばらしい野木っ子に育っています。この事実があればこそ私は幸福感にひたりながら教職を去ることが出来るのです。

野木小学校と同窓会の限りない発展をお祈りします。ありがとうございます。

(昭和六十三年二月)

## グランド整備決算書

### 〈収入の部〉

野木地区負担金	5,460,060円
同窓会員(野木地区以外の方)	2,420,440円
学校職員	185,000円
野木地区外関係者及び事業所	530,000円
中川氏	3,000,000円
上中町(バス停留所に対する補助金)	700,000円
武生区(バス停留所の負担金)	150,000円
祝儀(落成式)	93,000円
農協借入金	300,000円
その他(預金利息 外)	66,569円
合 計	12,905,069円

工事協力金 上中土建 500,000円 辻本組 430,000円  
現物寄付 歩道タイル 100㎡ 上野敏雄氏

### 〈支出の部〉

1	事務費	293,294円	寄付依頼文書印刷 郵送料 切手代 会報郵送料 封筒代
2	会議費	135,704円	委員会等の会議
3	推進費	145,246円	陳情費 見学費
4	落成費	764,952円	落成式 神官謝礼 記念品 児童への記念品 式典関係一式
5	工事費	7,402,945円	庭園移転費 門柱石積 門柱 バス停工事費
6	図書費	1,585,142円	中川文庫図書 書架
7	予備費	524,945円	借入金返済 ワープロ補助 香典
	合 計	10,852,228円	

### 差引残高

12,905,069 - 10,852,228 = 2,052,841円

上記 野木小学校グランド整備に係る会計帳簿、各領収書等精査の結果、すべて正確であることを確認します。

昭和62年 7月 21日

会計監査委員

小谷春治 印

々

東山哲也 印

## グランド整備事業を終えて

喜多利夫

野木地区土地改良事業の一環として、小学校グランドの整備事業と取り組む事がまじつたのは、昭和五十八年でした。地区民一同の絶大なる御理解のもとに、一町六反余りの土地を提供して下さいました。

しかし学校周辺の、庭園の移転、校門の新設、遊具の設置など、どうするかなどについて検討する為に整備委員会が結成されました。不肖、私が委員長という大任を担う事となり今日に至りました。

指導と、ご協力を賜わりましたことに対して、改めて御礼申し上げます。

六十二年七月に、会計監査を終え、整備委員会を解散いたしました。別表の、収支決算書をご覧いただき、ご承認下さいませようお願い致します。

尚、残額が少々ございますが、委員会におきまして、今

後の運営は、委員長、副委員長、区長会長、公民館長、学校長によって、必要なことが生じた場合、協議して運営を

# 思い出

## 第十八回卒 時岡(福井)正光

六十年前の故郷を省みます時に、やはり一番先に思い出されますのは、小学校時代であります。

現在の学校教育で最も問題視されていますのは「いじめ」でありますが、私共の時代は十名位の上級生がグループになって特に目立つ行動の下級生がいると、一人一人を呼んで注意をするというしきたりがありました。私共もこれにならって二、三人の下級生を呼んで注意した思い出もあります。

今日の学校にいわゆる「いじめ」は余りにも陰険な点があり、学校そのものの善悪にかかわらず明るい学校生活を過ごせるよう極力努力して頂きたいと思えます。そして、良き伝統はいつまで大切に守りたいものです。

私共の時代の小学校は、木

していくように決まりましたのでご理解下さるようお願い申し上げます。

## 第二十二回卒 第千回卒 田中義政

造の二階建てで四方に「つっぱり」をして風雪に耐えておりました。上中連合運動会に参加すると、他の学校の子供たちから「つっぱり学校のこどもだ」とよくからかわれたことも思い出されます。しかし、野木小学校の校庭には中央に柳の大木がありました。

かの小野の道風が柳に飛びつく蛙を見て努力したことを学び、校庭の立派なものも努力の二字を物語っているものだ、よく自慢したものです。「君たちの学校にはこんなに立派な木はないだろう」といい返した思い出も今は楽しくなつかしいものとなりました。

はなはだ簡筆ながら一筆思い出の一端を記し、昔の母校を思い出していただければ幸いです。

おわりに野木小学校同窓会の益々の発展と、会員皆様方

のご健康とご多幸を心から祈念して筆を置くことといたし

ま (大阪市西成区山王 一丁目九の八)

# なつかしき母校

## 第二十二回卒 第千回卒 田中義政

武生の里に地を占めて  
若い命を導きつ  
今日も栄える学び舎の  
野木の健児の面影を  
遠く離れた異郷の地で  
昔の面影しのびつつ  
まぶたに映る稲田の波  
しのびしのびて幾年月

ああ なつかしの野木の里  
昔の恩師や今如何に  
幼き頃の友の顔  
日頃はいつも忘れがち  
同じ窓辺の会信を  
手にして目覚める感無量  
ああ なつかしの吾が母校  
行く末永く栄えあれ  
(舞鶴市金屋町八の一)

# 恩師の思い出

## 第二十五回卒 辻岡(福田)フサ

野木小学校同窓の皆様、お元氣のことと存じます。送られてきた原稿用紙を前に、いろいろと考えましたが昔のこととは皆忘れてしまい、何を書いてよいかわかりません。思い浮かぶがままの文になることをお許しください。

私の生家は小学校に最も近い所で、通学には三分あればよかったです。遠くから

通学される友達はいへんでした。吹雪の中、真っ白に雪だるまの様になって来られる姿が今も喉に浮かびます。

両親も兄弟も他界し、お盆に生家へ行くたびに学校を眺めます。昔の面影はなくても改築された立派な学校に感激しております。

一年生の時、思いハシカの病にかかり、長い間学校を休

# 郷のうた

## 俳句

春の日の名残をおしみ

夕日かな

鳥かけをいつまでも待つ

春の風

田の面をながめてうれし

農婦かな

身もかるく單車でかける

野原かな

(坪内すず子)



みました。そのとき、担任の奥本スガ先生が心配されて家まで再三見舞いに来て元気づけてくださいました。このときの嬉しさを今も忘れることができません。最近、先生が上中病院へ入院されていると聞き病院へ行く度にお伺いしています。

昨年の三月二十三日に、末野えびす荘で久しぶりの同級会が開かれました。男子の方は戦争や病気で多数亡くなられ、出席された方はありませんでしたので、女子だけ九名で一日を楽しく語り合いました。特に、水江さん(堤の小森さん)と卒業以来久しぶりにお会いできて大変懐かしく思いました。

中川前知事が、幼い頃の私の顔をいつも覚えていてくださり、いつお会いしても声をかけて、手を握って下さいました。四月一日に瓜生公民館へ講演に来られました。そして、四十年前に野木村長に立候補された時の話から今日までの人生の荒波航路を二時間に渡って話されました。長い間社会のためにつくされ、ご苦労さまでした。お帰りの際、万歳を叫びお送りしました。その際にも大勢の中で私

に「お前いくつになった」とお尋ねになられ、お話し申し上げたのが最後になりましたあまりに突然のことで、その後は、欲も得もなく悲しみにくれました。町葬にもお参りさせてもらい、生前のお元氣な姿をしのび、ご冥福をお祈り申し上げます。

有り難いことに私は、お陰様で健康に恵まれ、農作業の余暇にはゲートボールを楽しんでいます。そして、一日一日を感謝の気持ちで幸せに過ごしております。

最後に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。  
(上中町上吉田)



### 今も青春 第二十九回卒 松宮(桑原)ふさ枝

「のう、おかか」の名セリフをはいて、そのあとしばらく校内を近所をその一色にしたのは、小学一年生のときの学芸会に「きつねの嫁入り」の劇のお父さん役をさせてもらった私でした。

あれからもう半世紀あまり過ぎた今も、仕事や家事に精を出しても疲れをあまり感じません。これも雄大な野木ヶ岳をおおいで育ち、ありがた

い武生の不動明王の下で学んだお陰があったればこそと感謝の心でいっぱいです。

還暦を過ぎた今も、ゴルフ場わかさカントリークラブに勤めさせてもらっています。ゴルフバッグ・ HALF セットも買い求め、作業後などに余裕ある時は「大正生まれなんてなんのその」と若い気分です。「元氣印」の見本のように動きまわっています。

また、家庭に入っては孫たちのよい友達になって、雑誌は「コロコロコミック」、おもちゃは「ゾイド」、おやつは「ピククリマンチョコ」と流行の一

### 無題

### 第三十九回卒 坪内(内藤)鈴子

端にものせてもらっています。「もう私も老いたので:」などという言葉は一番嫌いで心のうちで年齢をストップさせ、ますます張り切って生きぬきたいと念願する今日このごろです。(上中町下吉田)

(逆境にもつよく生きぬく  
野木小出の子)

毎日晴天が続き、仕事は忙しい。夫の世話、買い物、農作業と苦しいが、又楽しみ。遠い所にいる娘のことが心配です。金もいる。内職がなくなり心細い。人に頼めばそれだけ負担がかかる。出来ることは自分でしなければならぬ。収入は夫が頼り。

町へ行けば、あれこれほしい物ばかり。身体も辛いので大事にしなければならぬ。生きていくかぎり、まさつ起こらないようにしなければならぬ。世間はみな見ているのである。自分と他人の評価はなんであるのか。農業の収入も機械のために消えてしまうのだ。

機械、お金、服装、仕事の権利…。夢は果てしないのである。(上中町上吉田)



# 世代交代の中で

第四十九回卒 和田(北脇)美也子

数ある報道誌の中で、この同窓会誌程に人の心にみずみずしい潤いを与えてくれるものはありません。

思えば、生まれたのが終戦の年だった私たち同期生は、わずか十四人。(四年生から杉山分校より五人増えて十九人になった)先生を円く囲んで勉強した日もありました。昇降口を入ってすぐ右に二坪位の購買があって、一本五

円の鉛筆や手削りナイフ、一冊十円のノートなどが売られていました。全校生が懸命に取り組んだ漢字、計算の一斉

テスト、ラジオ体操のあとの乾布まさつ、一日一善の励行和室で行われた児童会や映画鑑賞。プールなどなかったけれど、ほとんど誰も泳いでいた夏の臨海学校。野木小は決まって「汽車」の合奏だった岩本先生指揮による秋の音楽祭、またストーブ焚きつけの杉葉拾いも大切な年中行事のひとつでした。

その頃教科書は自費で上級生の古いものを譲り受けたり下級生へ回したり、大切に扱ったものです。そうした異年齢の集団生活の中からいろん

な智慧をしばらく、生活力を身につけていたように思われま

す。

一般誌では、いじめ、非行校内暴力と、当時では考えも及ばなかった記事が一向に衰える気配もなく、連日のように掲載されている。

「塾だ。テストだ。偏差値だ。」と子供たちに対する価値観を見誤ってはいないだろうか。優しさと甘やかしの根本的な違いを、大人たちは理解し得ているだろうか。小さな可能性の芽を摘み取ってはいないだろうか。物の豊かさに甘えて過ぎた貴重な年月の重みを通して、一人ひとりが今起こりうるさまざまな問題の本質を考えておかなくてはいけないと思います。

先日、会報にて野木っ子の素朴で純粹な心が表れた作文を読ませていただき、心の和む思いがしました。「野木小学校」その何ともなつかしい響きは、明治、大正、昭和とその時代に応じた数多くの思い出を刻み、今その姿は生まれ変わろうとも、あの日の光景はそれぞれの胸の奥深く永遠に息づくことでしょう。

(広島市佐伯区海老園二丁目 十六の二十二)

# 「むごい教育」

K・T

徳川家康が幼少の頃、今川義元の人質となった。義元は家臣に、

「この子供にむごい教育をしてやれ。」といったそうだ。

家臣が、

「むごい教育とはどんな事をするのですか。」と、問うと、

「朝から晩まで、うまい物を食わせ、冬は暖く寒さ知らずに、夏は涼しくなるように、なるべく汗をかかず、大事に育てることだ。」と答えたそうだ。

「そうすれば、大低の間間はだめになり、反抗しなくなるだろう。戦国の世であるゆえ誰かに亡ぼされるであろう。」と、答えたという。

さすが、後に天下を治め、徳川三百年の礎を築いた家康は、だめにならなかつた。むしろこれを教訓として、質素なくらしをしたといわれている。

家康は、我が子の長松丸(二代將軍秀忠)に、人としての心得を教える一つに、「家来は、白米を食べたら、

こなたは七分づきか、麦飯を食べよ。家来が五時に起きたら四時に起きよ。けつしてぜい沢はするな。これが將軍であり、上に立つ者の心構えと見え。」と教えた。

この話は大いに考えさせられる。

大低のものは、口に入る飽食の時代である。親も子も少しでも快適な生活を求めて欲望はつきる所がない。物質的にも、経済的にも恵まれた中で子供達は逆に「むごい教育」を受けているのかもしれない。臨教審も「たくましい体」「豊かな心」を教育目標にしている。

今川義元は、桶狭間で信長に亡ぼされたが、このことは、その後四百年を経て、更に新鮮にひびく。豊かさゆえの「むごい教育」を無視できないのは、私だけであろうか。



# 一輪車

## 五年正木尚子

雪のなかったころ、私達五年女子は、毎日一輪車に乗っていました。今では、五年女子のほとんどの子が乗れ、手をつないでまわったり、競走をしたりしています。

私が、こんなに一輪車が好きになり、乗れるようになったのは、がんばって毎日練習したからだと思います。

一輪車に乗れなかったころは、おもしろくなく、「早く乗れたらなあ。乗れなかったらどうしよう」という気持ちでいっぱいでした。鉄ぼうをもつてやったり、手をつないでもらったりいろいろしました。

はじめてのれたというときみんなに「のれたよー。ここまでのれたよー。」

と大きな声でいきました。

たくさんのれたときは、本当にうれしかったです。それに、もつと練習をすればうまくなるという気持ちがたくさんあったからです。

乗れない子もいたけど、私は乗れる子の一人となりまし

た。

それから後は、もつといっしょうけんめい練習しました。いっしょうけんめい練習すればけっこう早く、うまくなります。

だから今では、すいすいとのったりまがつたりして道や校庭でのついています。何ももたなくても、のったりしています。

みんなといっしょにのついても、車輪にひつかかったり、足がすべってこけたりもします。



らくに乗れるということはどううれしいけど、もつともつとうまくなって、いろいろなこ

### よろしく 新入会員です。

これらの俳句の中には、全国俳句大会や県俳句大会の入選作となったものがいくつもあります。

風にのり巣を作るクモ

忍者可な 桑原進太郎

さくら咲き自転車のつて

中学校 竹村佳一

たけのこがゴミをおしのけ

伸びていく 竹村昌祥

つめえりと期待と不安で

春を待つ 桑原正和

入学式母はうしろの

中学生 藤田益浩

窓わくのむこうに広がる

銀世界 清水泰文

野木山の若葉に向い

深呼吸 福田武志

ふるさとを青田の風が

出入りする 奥本則夫

満月や野原にころがり

秋まつり 辻本敏宏

麦の穂のひと粒ひと粒

心あり 清水裕喜

とができるようになったら、いいなあと思います。

それぞれの顔の色かえ

七変化 正木教英

朝つゆにキラリと光る

ザルのなす 上野貴義

青い空われこそ競う

こいのぼり 橋本美咲

山からの詩のたよりは

ホトトギス 井上敦子

青き田に肥料やる手の

たくましさ 滝 由美

つゆの朝黄色いかさの

こどもたち 田中由美

あゆとりに出て行く父の

足はずむ 塚本晃子

青空を黄金に染める

麦ばたけ 塚本洋子

あじさいに移り心の

乙女かな 居関里佳

雨もよう草木や花の

めぐみの日 武田知子

あじさいの雨のしずくは

にじの色 東久美子

風鈴の音もかるやか

校長室 田中寿枝

雨あがり宿題すまし

ホタルとり 田中祐子

### 編集後記

会員の皆さん方のご協力によりまして、第三号をお送りすることができました。厚くお礼申し上げます。

中身の濃い原稿をお寄せいただき、編集員一同喜んでおります。

早くからお寄せいただきましただにもか、わらず今日になりましたことお詫びいたします。

同封の原稿用紙に、思い出やご活躍のようすなどをお寄せ下さい。お待ちしております。

特に遠隔地にお住まいの方々にとつて、野木の里や、親、兄弟、友人など、なつかしく思われることでしょうか。

「やまどりの ほろほろ鳴く声聞けば 父かと思ふ 母かと思ふ」(行基菩薩)

この同窓会だよりから、野木の匂いを感じとっていただければ幸いです。

編集員一同

◎同窓会員名簿の残部がいくらかございます。ご希望の向きは、送料実費八〇〇円を添えてお申し出下さい。

連絡先 〇九一九一―一五 福井県遠敷郡上中町武生

野木小学校

〇七七〇(五七)一三〇〇

